

令和2年1月4日（土）

明けましておめでとうございます。 その7

正月3ヶ日が過ぎますと、途端に世間は正月気分から現実の世界に戻り始めます。今年は、まだ、4日5日が週休日ですので、勤めが6日からとなり、もう少し休むことができそうですが、逆にそうなると、生徒たちの動向が気になりますのです。

こんな時には、ラトブに顔を出して、学習室をのぞいてみるのも大切であります。本来なら学校を開けて自習体制を作ればとても良いのですが、働き方改革の余波を受け、なるべく休めるときは休むのが良いという判断から、12月28日から1月5日まで、基本的に学校は開けておりません。

必然的に生徒たちは、塾に行くのかラトブに行くのか、自分の特等席を見つけて徘徊するのは目に見えております。自分が作り上げたルーティーンをひたすら守ろうとするのが受験生ですから、その動向に必要な学習する場所を確保することは一番大切なことでもあるのです。

昨年、千葉大に前期試験で合格したA君は、毎日ラトブを利用し、学校があるときには、放課後必ず21：15まで集中し、9：30の電車で帰り、帰宅後、食事をとって風呂に入り、1：00過ぎまで頑張って、次の日の7：37分のいわき着の電車にはきちんと乗って登校しておりましたので、この地味でも愚直の繰り返しの積み上げがどんなに大切かをこの目で見てきたところです。

16：15分ごろからのラトブでの5時間の学習と、家に帰ってからの2時間の学習と、併せて7時間の家庭学習時間を繰り返して行うことによって、栄冠は頭上に輝くのです。

平日と、休日の学習の内容の工夫や、その7時間の学習の中身の工夫もあつたに違いありません。しかし、学習総量の確保がまずすべての前提であつて、あとは、学習内容の計画性ですので、今後、3月31日までの90日間における帰着店からさかのぼって計画する受験勉強の良の確保と質の確保が学習の根幹であると考えます。

2年生は、英国数のまとめと理社を早めに終えることができるような準備を始めるべきですし、1年生も英国数の今までの到達点とこれからの道のりを考慮した、理社への攻略図を準備しながら、基礎基本を固めていくことが肝要です。

各先生方の経験は、とても大きなものなのです。今までの卒業生とのやり取りから、現役の生徒たちがどう取り組むべきかの指針と材料を準備できています。AOⅢ期入試や、センター併願入試面接も、学校が用意できる過去の遺産は、相当量のものがありますので、常に担任や教科の先生と連絡を取り、自分の進むべき道をチェックして勉強してください。

